

地球温暖化防止への取り組み

事業活動に伴う温室効果ガスの削減に努めています。

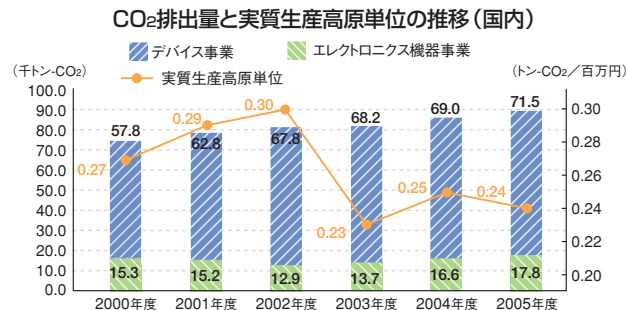
京都議定書の削減目標を達成するため、国内・海外のグループ会社ごとに削減目標を策定し、さまざまな取り組みを行っています。

国内

2005年度の二酸化炭素排出量は、2004年度に比べて国内3.7千トン(+5.6%)増加しました。増加した要因として、デバイス事業であるカシオマイクロニクス(山梨)のCOF生産や甲府カシオ(一宮)の成形事業の拡大、エレクトロニクス機器事業ではカシオ電子工業のトナー生産24時間体制への移行、および、電力からCO₂へ換算する係数を従来とは異なる方法で算出したことが挙げられます※1。

また、削減目標である実質生産高二酸化炭素(CO₂)原単位は、2003年度に比べて23%増加しました。

※1:従来までは、環境行動目標の基準年度が1990年度であったことから、国内は電機・電子業界「地球保全のための自主行動計画」の換算係数を使用していましたが、基準年度が見直されたことにより、国内は「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案Ver.1.6)」を使用しています。



取り組み事例として、カシオマイクロニクス(山梨)のフリークーリングシステムと省エネ電源トランスの省エネ機器導入等があります。

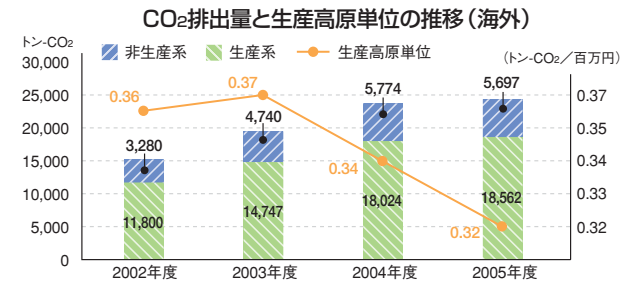
今後は、カシオマイクロニクス(青梅)のコンプレッサを省エネタイプへ更新、高知カシオのデマンド制御(ピーク電力を抑える制御をしながら省エネを図る)の実施などを計画しています。

海外

2005年度の二酸化炭素排出量は、前年度に比べて4.6千トン増加しました。これは、カシオ電子科技中山が2006年2月から新規稼働を開始したこと、および国内と同様に電力からCO₂へ換算する係数を見直したことが挙げられます。従来までは、「各国における発電部門CO₂排出原単位の推計調査報告書(2002年3月JEMA発行)」を使用していましたが、今年度から同報告書(2004年3月)JEMA発行]を使用しています。

施策としては、カシオインクでは、熱を再循環するファンを設置して天然ガス20%相当の削減や省エネ機器を使用することで年間

163.8kWhの電力を削減しています。さらに、カシオタイでは、屋根を断熱処理するなどの省エネ対策を実施しています。



その他の温室効果ガス削減

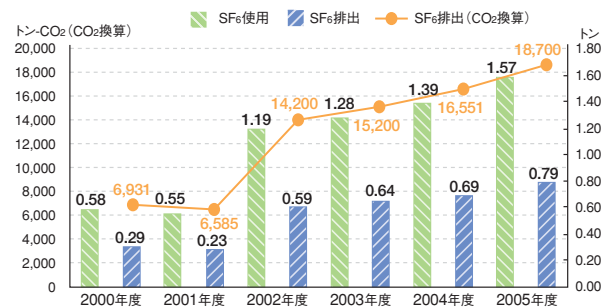
SF₆は地球温暖化係数が23,900倍と高いため、排出量を削減することが重要な課題です。

高知カシオでは、TFT製造工程のドライエッチング工程で使用されるSF₆(六フッ化硫黄)を削減するためにさまざまな施策を実施しています。

2005年度は使用量が前年度に比べて0.2トン増加しました。これはTFT液晶の生産増によるものです。

削減目標である2000年比では、270%増加であり、2010年までに2000年と同等という目標は高いハードルとなっています。

CO₂以外の温室効果ガス(SF₆)使用量・排出量とCO₂換算排出量の推移



2005年度は、その目標を達成するために、

1. SF₆を温暖化係数の小さな代替ガスに変更
2. 除外装置の導入

について検討を行いました。2007年度末までにはどちらの方法を採用するか結論を出す予定です。